



PATHO News

自治医科大学 病理診断部

No.24
2014. 5. 15



病理診断部 & 病理診断科へ

自治医科大学病理部門では、この4月から「病理診断科」を標榜して診療（「病理診断説明外来」の開設）を行うことになりましたので、お知らせいたします。なお、中央施設部門では、これまで通り「病理診断部」として、病理検体を受付け、その処理や標本の作製、検査、診断等の業務を行っています。

平成20年に「病理診断科」が標榜診療科として認められ、医療法施行令第3条の2に「病理診断科」の名称が付け加えられました。また、病理専門医は、日本専門医制評価・認定機構が定める基本領域18領域の専門医の一つであり、新専門医制度にも引き継がれます。さらに近年、患者の知る権利や情報開示の要求も高まっており、自分の病気（例えば「がん」）の診断を行った病理医に説明を受けたいという要望も出てきています。

以上のような動向を踏まえ、当院でも診療科として「病理診断科」を標榜し「病理診断説明外来」（仮称）を開設することになった次第です。このような取り組みが、本院で診療を受ける患者やその家族の納得や満足感に少しでも貢献できたら嬉しく思います。病理診断部／病理診断科を今後ともよろしくお願い申し上げます。

退職のごあいさつ

病理診断部を3月いっぱいまで退職したスタッフからのご挨拶です。

山口 岳彦先生



2011年3月11日の東日本大震災をはさんで前後3年ずつ計6年間過ごした自治医大を、3月31日をもって退職することになりました。ようやく臨床の先生方と面識を得ることができ、これからという時に異動することになったことは少々残念です。在職中、多くの同僚から刺激や協力を頂き、特に病理部スタッフの皆様方には多大なお世話を頂きありがとうございました。未曾有の惨事と自治医大病理というかなり特殊な環境でこそ得られた貴重な経験を、今後活かしたいと思います。

佐久間 祐司先生



昨年4月に久しぶりに自治医大病理に戻ってきたのに、バタバタと一年で自治医大を辞し、札幌医大附属研究所へ異動することになりました。前回の在籍を併せると5年間勤務させていただきましたが、病理診断・病理学研究を通じて学んだことは私の最大の財産となっていますし、今年度は講義や病理実習など医学生教育も体験できました。本当にありがとうございました。

札幌医大での所属は病理ではありませんが、病理医としての経験を活かす研究を展開したいと思います。

今後の自治医大および病理学講座・病理診断部の発展を祈念致します。

病理診断部 業務実績報告（2013年1月～12月）

1. 組織診

件数	14,559件
ブロック数	67,861個
HE染色枚数	136,572枚
迅速件数	781件
迅速個数	1,395個
センチネル件数	192件
センチネル個数	400個

3. 免疫組織化学（IHC）

IHC件数	2,081件
IHC染色枚数	10,656枚
ER or PR件数	431件
Her2件数	451件
FISH*件数	65件

*蛍光 in situ ハイブリダイゼーション

5. 蛍光抗体法

件数	244件
うち さいたま医療センター	79件

6. 剖検

件数	33件
うち院外剖検	3件

2. 細胞診

件数	18,983件
迅速件数	226件
総染色枚数	39,306枚

4. 電子顕微鏡検査

件数	286件
うち さいたま医療センター	91件

7. 遺伝子検索

件数	14件
----	-----

■平成25年度における生検診断は14,559件、細胞診は18,983件、術中迅速診断は781件、剖検診断は33件でした。

■組織診の件数、細胞診の迅速件数は、昨年比増加傾向にあります。

■免疫組織化学件数も増加傾向にあり、病理診断・分子標的治療の判断などに大きく寄与しています。

■電顕は主だった腎生検検索の他に新たに心筋生検検索も加わり、病理診断や臨床的予後判断に寄与しています。

■剖検数は減少傾向ですが、定期的な病院CPCの開催、学生講義、臨床実習（BSL）、研修施設・教育施設認定など、多方面に大きく貢献しています。

検体受付および剖検受付時間

8:30 ~ 17:15 (内線 2257)

注) 土・日・祝祭日は剖検のみ受付 (内線 2257 or PHS 18218)

ニュースレター PATHO News 病理診断部 No.24 2014. 5. 15

発行 : 福嶋敬宜(ふくしまのりよし)

編集 : TEAM

だったつ

飛田野清美(ひだのきよみ) 柳田美樹(やなぎたみき)

田村聖月(たむらみづき) 松本祐弥(まつもとゆうや)